

令和4年度 豊かな学びを推進する幸手市GIGAスクール構想 グランドデザイン

◎Society5.0時代・SDGs時代

- 生きて働く知識・技能の確実な獲得と新たな価値や知識を生み出そうと学び続け、問い続ける教育の実現「指導技術の工夫」から「子供の学びの姿」に軸をおいた授業改善の推進→子供一人一人の学び方・理解の仕方の特性、「教育的ニーズ」を把握した授業改善
- 「教職員だけ」→「チーム学校」へ、「教師だけ」→「開かれた教育課程」を実現する学校へ、「同一内容だけ」→「個々人の特性」に応じた教育へ、「紙だけ」→「ICTなどの活用」へ、「学校だけ」→「学校以外の場」も。

目指す幸手の教育

育てたい姿、資質・能力

- 多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ、他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力の育成

幸手市の基本方針

豊かな学びで未来を拓く

個別最適な学びと協働的な学びで豊かな学びを創出する
= 未来の学習室に向かいあらゆる可能性を追求する

児童生徒や学校の実態に応じ、各教科等の特質や学習過程を踏まえて、
資質・能力の三つの柱をバランスよく育成する

いつでも・どこでも・何度でも・誰でも・誰とでも

児童生徒に
育成する力

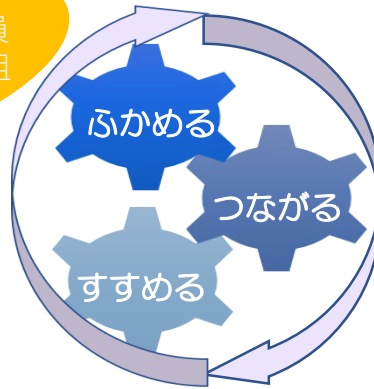
目指すGOAL

- ①主体的に学習に取り組む力、多様な学び方
- ②知識・技能及び思考力・判断力・表現力
- ③自ら学び、学び合い、最適解を創造する力
- ④情報活用能力（C B T 導入も見据えて）、健康・安全を実践する力

目指すGOAL

- ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かす
- ②学ぶ・できる喜びを味わわせ、魅力あふれる学習室を創造する
- ③児童生徒に対するきめ細かな支援と多様な学びの機会提供をする
- ④校務支援システム等との併用により、指導や業務改善につなげる

教職員
の取組



達成に向けた活用方策

授業で

- ①統合型アプリケーション（ミライシード）を用いた協働学習
- ②文章作成・プレゼンソフト、プログラミング教材の利用
- ③デジタル・シティズンシップ教育、健康・安全の学習

家庭で

- ①学習状況に応じた個別学習（ドリルパーク、SYEN）
- ②欠席の際にも、授業にオンライン参加（Teams）
- ③学校の課題を、家庭でも探究・発展学習

社会で

- ①PBL（Project Based Learning）の実施、海外との交流
- ②市内公共施設へのオンライン見学や校外学習
- ③市内、市外の児童生徒との意見交流

達成に向けた取り組み方策

- ①PBLの実施と学校行事等での創意ある活用（単元設計の工夫改善、開かれた学び、魅力的な問い、個に応じた支援、適切な評価 等）
- ②ICTを活用した分かる授業の積極的な実践（デジタル教科書の活用）
- ③教師のICT活用・指導力向上のための研修の実践
- ④デジタル・シティズンシップ教育、プログラミング教育、健康・安全に関する指導の充実

達成指標

- ①主体的・対話的で深い学びを取り入れた単元設計に関する意識調査
- ②ICT活用に関する教員の意識調査（全国・県）

ICT教育専門員学校訪問

- 【児童生徒対象】PBL講座、情報活用能力育成講座
- 【教職員対象】ICTを活用した研究授業に対する指導・助言、児童生徒の情報活用能力育成及びPBLに係る研修
- 【保護者・地域住民対象】児童生徒の情報活用能力育成に係る講座

達成指標

- ①学習に対する主体性に関する意識調査

目指すGOAL

- ①導入すべきアプリケーションや設定の決定
- ②教職員の継続的研修計画の策定
- ③導入による教職員の業務改善

達成に向けた方策

- ①企業群によるICT研修会
- ②学校ICT推進委員による普及
- ③市教委による支援

達成指標

- ①アプリケーションや設定の決定
- ②次年度以降の研修計画の策定
- ③時間外勤務削減

教育環境

・1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する